

えんじゅ

令和2年11月16日発行

松原小学校 NO11

** 当面の主な行事予定 **

【 11月 】

- 1 7 (火) 全校集会
- 2 3 (月) 勤労感謝の日
- 2 5 (水) マラソン試走
クラブ

** 当面の主な行事予定 **

【 12月 】

- 2 (水) 校内マラソン大会
- 4 (金) 人権作文発表会
- 8 (火) 学習到達度調査
(4・5年生)
- 9 (水) 委員会
- 1 0 ・ 1 1 (金)
松林クリーン作戦
- 1 5 (火) 交通安全感謝状伝達
- 1 4 (月) 緑育体験 (4年生)
- 2 3 (水) 大掃除
給食最終日
- 2 4 (木) 2 学期終業式
- 2 8 (月) 仕事納め

音読劇 ~10月28日~

2年生が行いました。単元は、国語科教材「お手紙」。「そうぞうしたことを、音読げきであらわそう」という学習の一環でした。

班ごとに分かれた子ども達は、それぞれが想像したことを音読の仕方や動作で豊かに表していました。「お手紙」に登場するがまくんやかえるくんの心情がより理解できるようになったことと思います。



まず、やってみよう ~やる気の科学~

先月末に今年初めての全校集会（朝礼）を行いました。その際に「やる気」の話をしました。脳科学の研究によると「やる気があるから行動するのではなく、行動した結果やる気が出てくるのだ」と。だから、「まず、やってみよう」と。この考えは、ある著名な脳科学者の方の言葉によります。小学校ではいろいろな教科の授業があります。また教科以外には、休み時間に友達と遊んだり、学校行事があったりします。それぞれ、初めからやる気を持って臨むというよりはやってみることによってやる気が出てくるということらしいです。

自分達の例を振り返ってみても、当てはまるような気がします。算数がもともと好きでやる気があるから意欲的に授業に臨むというよりは、授業の中で学習して、よく分かったり、おもしろさを感じたり、テストで良い点を取ったりしたときにやる気を感じたりします。また、マラソンをやってみて、完走したときに気持ち良さを感じたり、良い記録を残したりしたときに、次もがんばろうとやる気が出たりします。

小学校では、授業などで様々な体験をします。子供達には、「まずやってみる」ことでやる気を創出してほしいものです。

避難訓練 ~11月5日~



2日に予定していましたが、雨天順延となり5日に実施しました。ちょうど「世界津波の日」と同日となりました。

今回は、休み時間中に地震・津波が発生したという設定で行いました。10時15分の緊急地震速報試験放送の合図で、それぞれの児童が、それぞれの休憩場所で避難体勢をとりました。次に、避難放送の指示により、運動場中央に1次避難。校舎の安全確認後、校舎屋上への2次避難をしました。

避難開始から屋上での人数確認終了までの経過時間は7分14秒。その後、各自で防災ジャケットを着用しました。児童全員がジャケットの着用を終了するまで10分44秒。迅速に避難行動ができたように思います。

講評では、世界津波の日が安政南海地震で避難行動を指示し、住民を救った濱口梧陵さんの功績に由来するものでえあること、巨大地震による津波の松原小学校への第1波到達時間が30分後であること、その時の浸水深が2.95メートルに及ぶ想定であることを確認しました。

最新の知見を生かして、最適の避難行動につなげ、命を守ってほしいと思います。

信号機製作 ~11月6日~

プログラミング学習として6年生が取り組みました。プログラミング教材として県から配付されたロボットセットの部品を組み合わせ模擬信号機を作りました。歩行者用信号機ということで、たて型としました。赤の信号を上側に緑の信号を下側に配置しました。信号機ロボットの基板にプログラムを転送して動かしました。赤の信号と緑の信号が繰り返し点滅する様子が確認できました。

今回のプログラムは、教師があらかじめ作っておいたものを子供達に模倣させ、実際に信号機ロボットが動くことを確かめることが目的でした。しかし、後半には、模倣したプログラムを基に自分なりに改定したプログラムを試す子供もいました。信号の点滅回数や点滅スピードを自分なりに変えて動作を確認していました。プログラミングを通じて論理的に思考する習慣が更に身に付いてくればと思います。

